

日本基督教団  
 愛知老人コミュニティセンター  
 〒470-0111 日進市米野木町南山987-88  
 TEL. 0561-74-5548  
 FAX. 0561-74-5561  
 ホームページ <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>  
 E-mail [makiba@mb.ccnw.ne.jp](mailto:makiba@mb.ccnw.ne.jp)  
 発行日 2005年6月13日  
 発行人 鈴木 卓也  
 イラスト 名古屋中学の生徒の皆様等

# まきば通信

第7号

## 「まきば」を訪問して

日本基督教団総幹事 竹前 昇

「まきば」が開設されてからもう8年の時がたったと伺っております。私が教団の総幹事の職についてからも「まきば」のことは折に触れて耳にしてはいましたが、なかなか伺う機会がありませんでした。ようやく昨年12月に、施設増築の相談ということで訪問することができました。

篠田理事長、鈴木館長のご案内を受けて「まきば」から愛知兄弟社の牧場まで丘の上をずっと見て回ることができました。とりわけ「まきば」の屋上からは、はるか遠くまで見通せ、どのような土地にこの施設が建てられているのかを受け止めることができました。今回の訪問の目的である増築計画についても、この屋上から説明を伺って、「まきば」がどのように将来構想を考えているのかをよく実感することが出来たように思います。

どの老人施設でも、設立から年月を経ることによって、入居されている方々の事情の変化が起こるということを聞いています。今回の「まきば」の計画も、この変化を、施設としてどう受け止めるかという課題に、積極的に応えていこうとする計画であると理解いたしました。入居されている方々の生活が十分に守られるように、どのような時にあっても誠実に支えていくことが施設の課題でありましょう。しかしそれは、言うは易く、実行には困難が伴うものであります。それだけに、そこで働く方々の努力に感謝をしております。

教団総幹事として、「まきば」の運営が初期の苦しい時代を乗り越え、経営的にも健全化してきたことに敬意を払います。そしてその働きは、この時代にあっますます求められております。そのお働きに、教団としてお支えができるようにと願っております。

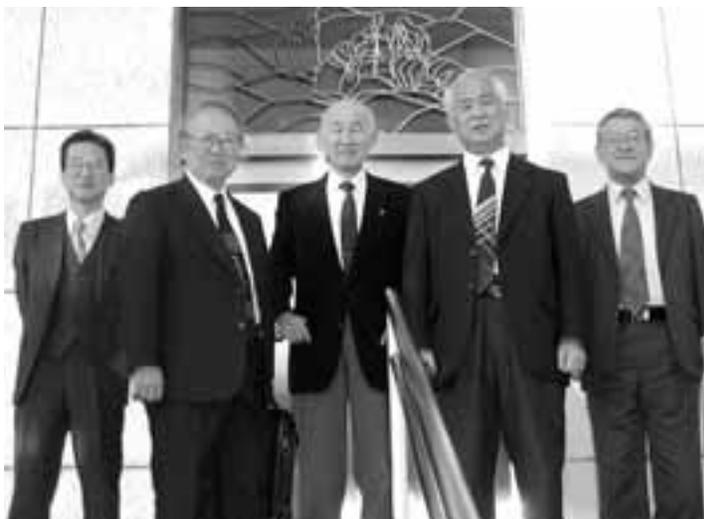
誕生会 ..... 2~3

イースター礼拝 ..... 4

俳句・短歌 ..... 5

「日々、聖書から恵みに与っている」  
 林 比佐雄 ..... 6

●  
 施設長の「まきば」報告  
 館長・施設長  
 鈴木 卓也 ..... 7



▲「まきば」を訪問した竹前総幹事

左より 鈴木館長、篠田理事長、小崎センター委員、竹前総幹事、愛澤総務幹事

## 誕生会

「まきば」では、毎月誕生月の方を祝って、お誕生会を開催します。年を重ねて来られた方々の誕生祝いには、格別の重みがあります。

誕生月の皆様と職員に可愛い花が贈られ、大勢で一緒にお祝いします。一ヶ月の内でも、皆様が特に楽しみにして下さっている催しです。

毎月、ボランティアの皆様による多彩な出し物が企画されています。

そこで今回は、昨年度1年間の誕生会をご紹介します。



### 2004年



▲ 4月 『大正琴』 ひいな会の皆様



▲ 5月 『コーラス』 みどり野コーラスグループの皆様



▲ 6月 『ピアノと歌』 J & Sの皆様



▲ 7月と2005年1月 『琴と尺八』 山吹の会の皆様



▲ 8月 『吹奏楽』 日進高校吹奏楽部の皆様





▲ 9月『バンド演奏』 ナッツ・メローの皆様



▲ 11月『コーラス』 コール・ロマンツェの皆様



▲ 10月『フラダンス』 まきばフラダンスチームの皆様



▲ 12月『フォークダンス』 エーデルワイスの皆様



## 2005年



▲ 2月『コンサート』 シャルノワールの皆様



▲ 3月『腹話術と落語』 田中充江さんと施設長

# 施設長の「まきば」報告

館長・施設長 鈴木 卓也

新米の施設長も、皆様の祈りに支えられ、なんとか無事に一年を過ごすことができました。

思えばこの一年、本当に多くの恵みに満たされて、ただただ感謝の連続でした。心より御礼申し上げます。中でも一番の感謝は、施設増築への道筋が整えられたことでした。長い間、皆様にお祈りいただいて来ましたが、いよいよ現実のものになってきました。8年前に入居された方々の高齢化が進み、介護度が上がって、今の自立型の居室では危険を感じる状況の方も増えてきました。

そこで今回、愛知兄弟社の協力を得て、南に面した500坪の土地をお借りし、設計を開始することになりました。どんな状態の方にあっても、24時間の介護に万全を期し、入居いただいている皆様とご家族に安心を提供することができる、より良い施設を造りたいと考えています。

規模を大きくするより、小さい施設だからこそできるきめ細かい心遣いを大切にするため、介護室の増室は最低必要な5～6室にとどめ、使い勝手の良い共用施設や、職員の働きやすい環境作りにも重点を置こうと考えています。また、これからの予防介護の必要性をもにらみ、機能訓練・健康維持活動のためのスペースも確保したいと考えています。

この増築のために、わざわざ教団本部から竹前総幹事と愛澤総務監事がお越しく下さいました。そのことによって、日進市の「まきば」と早稲田の教団本部がいきにくくなった印象を受けました。さらに、「まきば」の将来を心配して、多額の献金を捧げてくださった方もいらっしゃいました。祈りが聞き入れられ、さらに祈りの輪が広がっている実感を受けています。主の恵みを受け、主に愛された新しい建物の実現が目の前に迫ってきました。主を愛し、主に仕える施設として、職員一同、心を合わせて歩んでまいりたいと願っています。



この増築のために祈ってくださった諸教会の皆様、実現のために奔走して下さった教区・教団の皆様、理事会・センター委員会の皆様に心からの感謝を申し上げます。

これからも皆様の祈りに支えられ、与えられた地上の生涯を、安心して信仰がまっとうできる環境を創り上げるために、み旨に叶った施設として立てられますように、より良い施設増築のために引き続きお祈りくださいますようお願い申し上げます。



# イースター礼拝

毎年、クリスマスとイースターには、入居者の皆様と共に礼拝を持っています。

今年もイースターの礼拝が篠田潔理事長の説教、榎本久美江センター推進委員の奏楽にて行なわれました。特に今年のイースターには、西中国教区の教会で長く使われて来た7ストップのオルガンを運び込んで、いっそう厳粛に執り行なうことができ感謝でした。

すっかり「まきば」の年中行事として定着しています。



▲ 篠田理事長による説教



▲ 7ストップオルガンと  
榎本センター推進委員



▲ 入居者の皆様



「俳句・短歌」

〈俳句〉



風に落ち 水の面に浮かぶ 椿かな

朝倉 和代

藪椿 俯き咲きて 色濃かり

浅野 み祢

SPの「椿姫」聴く 春の宵

石原 信良

紅椿 小庭に落ちて 艶やかに

伊藤 好子

苔庭の 雨に落ちたる 椿かな

井上 和子

密やかに 落ちし椿の 美しき

大谷多可子

夕暮れの 庭静かなり 白椿

後藤 正子

孫・曾孫 揃ひ祝へり 初節句

城崎 幸子

紅の色 雨に残して 椿落つ

富田 きよ子

紅椿 風に堪へつつ 咲きこぼれ

富田 晏弘

母惚ぶ 椿の柄の 和服かな

藤高 好子

車椅子 廊下行き交ふ 春寒し

松井 真

紅椿 「まきば」の庭に 永久に咲け

山内 義盛

友と来し 山里寂し 藪椿

山下 比奈子

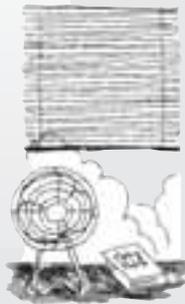
椿落つ 雨の古利の 甃石に

森 枝葉子

春山菜 名をたしかめつ 箸はこび

安井 照男

〈短歌〉



世の憂さを 知らぬ野鳥の 長閑さや  
藤前干潟に 餌漁り遊ぶ

中村 婦佐

國境の 白夜の営庭に 流るるは  
故郷と想う 尺八の音

森島 利定

## 『日々、聖書から恵みに与っている』

隠退教師 林 比佐雄

隠退してはや一年が過ぎました。今、日々の喜びと楽しみは、聖書を読むことです。それは、読むごとに新しい発見があるからです。その内の一つに「神の義」という言葉がある。特に、旧約聖書の口語訳では「義」と訳されているヘブル語のツェダーカーは、新共同訳では大部分、「恵みの御業」と改訳されていることです。これは大変すばらしい重要な改訳だと思います。これはまさにカトリックとの共同訳ならではの成果だと思います。それは宗教改革者マルチン・ルターの聖書解釈から生まれた言葉だからです。

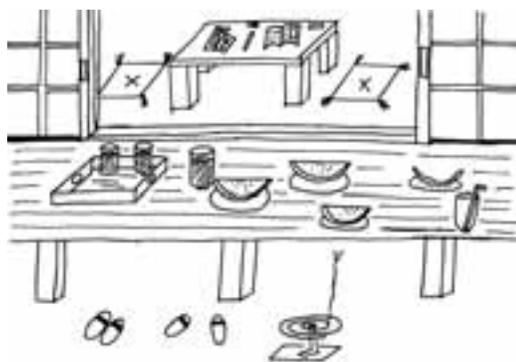
彼は、1513年8月12日から、ヴィッテンベルク大学で初めて聖書「詩編」の講義を始めます。そして31編の講義に入ろうとした途端、「あなたの義(ツェダーカー)をもってわたしを助けてください」(口語訳の1節)との言葉に戸惑います。当時のカトリックでは善行を積むことによって「義」を獲得するという教えだったので、彼はそのため人の何倍もの祈りと苦行を重ねます。その中で「神は何故、このような実現不可能な要求(神の義)を強いられるのか」と苦悩します。そして71編2節で同じ言葉に出会います。その頃、同時進行的に口マ書の講義の準備に入り、1章17節でも「神の義は、云々」という言葉に出会います。その時のことをルターは次のように言っています。

「私は口マ書を理解したいと切望したし、別に障害となるものもなかったが、ただ『神の義』という表現につまづいた。なぜなら私は『義』を、それによって神は義しいのであるし、義しくない人間を罰するのに義しく処置し給うのである、という意味にとったからだ。……それだから私は義しい、怒って給う神を愛さずにかえって憎み、彼に不平を言っていたのだ。…日夜、私は思索し、ついに私は“神の義”と『義人は信仰によって生くべし』という言葉との関連を見つけた。それから私



は神の義がそれによって恩寵と全くのあわれみから神が信仰を通してわれらを義とし給うところの義しさであるということを理解した。そこで私は自分が生まれ変わって、開いている戸口からパラダイスへ入ったのを感じたのである。聖書全体が新しい意味を持っていたし、以前には「神の義」が私を憎悪で一杯にしていたのに、今ではそれが私には一層大きい愛のうちに、言いようもなく快いものになった。このパウロの一句は私には天国への扉になったのである」と。

そのことから所謂、1514年春の塔の体験といわれる「福音の再発見」がなされ、1515年口マ書の講義が開始されたのです。まさに「神の義」は“信仰によってのみ”、「恵みのみ業」となったのです。その成果が“新共同訳”となったのでしょう。



■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名 (2004.4.1～2005.3.31) (敬称略)		
教会福祉献金	匿名氏1名	合計 1,000,000円
一般献金	名古屋東教会、下村徹嗣、 愛知西地区教会婦人会連合、志村信夫、 中部教区教育委員会、深谷佐和子、 真木芳子、溝口敏江、名古屋新生教会、 名古屋学院一麦会、横松順子、篠田潔、 岡崎教会、中部学院大学・短大部宗教委員会、 安城教会、天白伝道所、広路教会、 福野伝道所、金沢元町教会、尾陽教会、 松田一路、愛北教会、知立伝道所、 日進教会、他匿名氏2名	合計 314,500円
特別献金	匿名氏1名	合計 200,000,000円

なお、教会福祉献金の献金開始からの総額は、60,226,338円が積立てられています。  
また、特別献金として275,500,000円が積立てられています。  
皆様からの献金を心より感謝申し上げます。

献金振込先

- ① UFJ銀行 日進支店  
(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
理事長 篠田 潔  
普通口座 1162658
- ② 郵便振込  
日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター  
振替番号 00870-4-29934



編集後記

新しい年度を迎え、「まきば」周辺もまぶしいほどの新緑におおわれています。  
新緑と言えば「まきば」のホームページも刷新されました。詳しい施設の利用案内、最近の行事の写真など、楽しい情報が満載です。この通信も、紙面よりもさらに大きな活字で掲載されています。ぜひご覧ください。

さて、通信第7号はいかがでしたか。今回カットのご協力をいただいたのは、名古屋中学(旧名古屋学院)聖歌隊「一麦会」の皆さん。少しあどけなさも残る、楽しい子どもたちの作品です。「一麦会」の皆さんには、施設創立以来、行事へのご奉仕や献金等、様々なお支えをいただいています。

6月の花の日、子どもの日には、近隣の教会からの訪問も数多くあります。皆さんの教会でも一度「まきば」を訪ねてみませんか。周囲の牧場では、子どもも大人も一日たっぷり遊べます。バーベキューや乗馬もできますよ。場所は東名高速「三好インター」のすぐ近く。詳しい交通はホームページを。(岩本)

